Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して

国立がん研究センター

薬剤師レジデント
がん専門修練薬剤師 募集（令和6年度）

国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

http://www.ncc.go.jp/

INDEX

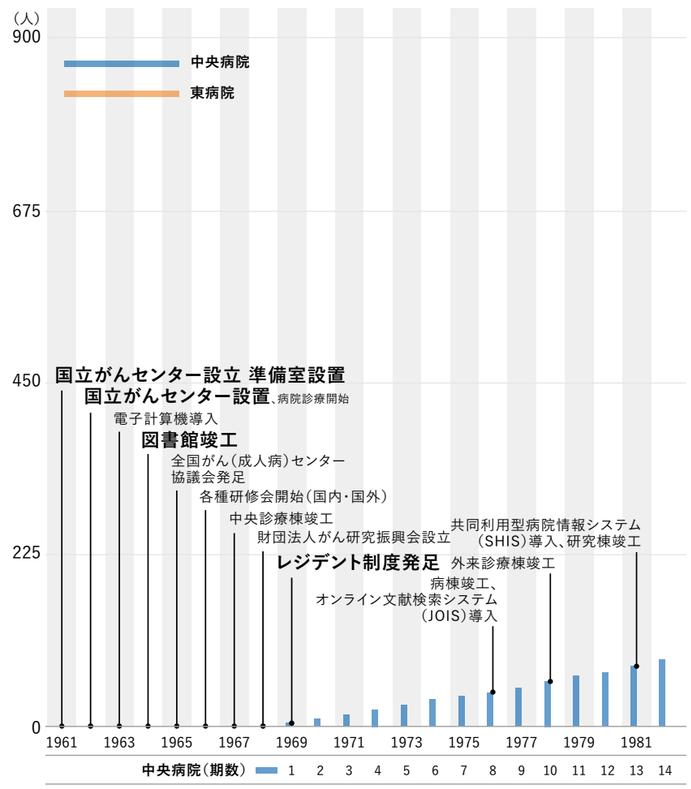
2 沿革／設立の目的とその使命
4 薬剤師レジデント制度について
5 薬剤師レジデント研修過程の内容
7 研修に関する Q&A
8 チーム医療に貢献する薬剤師
10 研修スケジュール
11 薬剤師レジデントの生活
12 薬剤業務
14 がん専門修練薬剤師の創設
16 募集要項（薬剤師レジデント）
18 募集要項（がん専門修練薬剤師）
20 薬剤師レジデントより
24 がん専門修練薬剤師より
27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960 年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら９名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962 年２月１日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中枢にすることでした。

その後、1992 年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994 年には、東病院に隣接して研究所支所、2004 年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌 2005 年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに 2006 年 10 月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集･発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。

レジデント制度 50年のあゆみ



設立時の建物

外来診療棟竣工（昭和 53 年）

研究棟竣工（昭和 56 年）

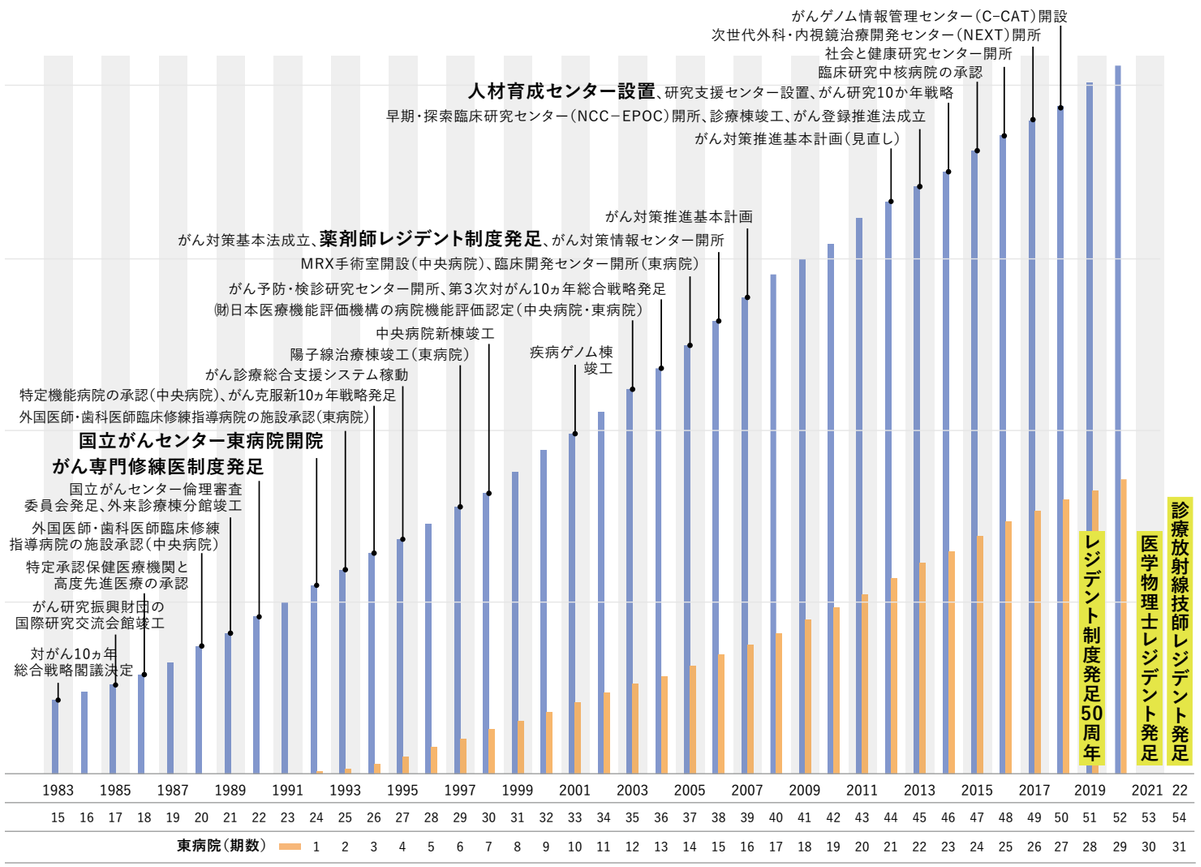
東病院（平成４年）

中央病院新棟竣工（平成 10 年）

診療棟（平成 25 年）

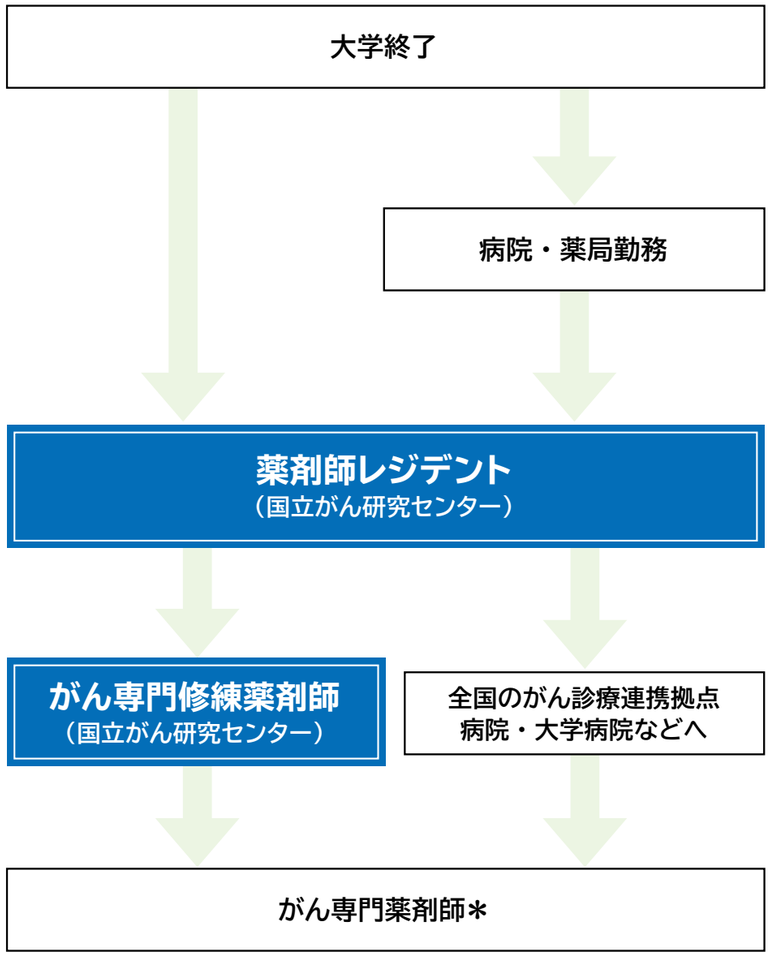
癌の文字から疒（やまいだれ）を取り除き品とし、それを図案化したものです。 昭和 45（1970）年

シンボルマークの内側の３つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「（1）臨床」「（2）研究」「（3）教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。



薬剤師レジデント制度について

「がん（悪性新生物）」は、1981 年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは 1962 年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006 年に薬剤師６年制教育が開始されるのと同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で18年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、３年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての３年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、15 期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修，50症例の経験，
学会発表または論文発表が必要となります。

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision：臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界最高峰のがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

（例：消化管内科）

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ（Natural Course）が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記１～６をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBM の手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM 等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

３年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

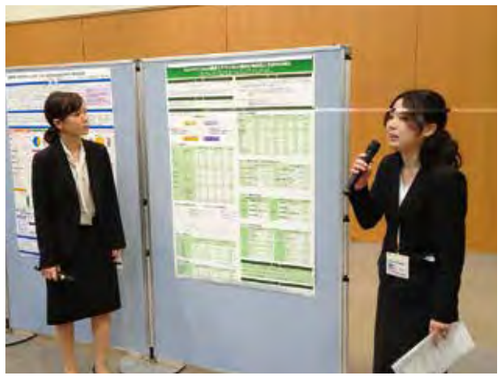
この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は令和３年度に行われた研修の日程表です。

	講　義　日	講　　義　　内　　容	講　　師（敬称略）	形式
1	2/2（火）	食道癌	腫瘍内科医	WEB
2	2/5（金）	大腸癌	腫瘍内科医	WEB
3	2/8（月）	乳癌	腫瘍内科医	WEB
4	2/10（水）	緩和医療（薬物療法）	腫瘍内科医	WEB
5	2/12（金）	肝・胆・膵癌（化学療法）	腫瘍内科医	WEB
6	2/15（月）	精神腫瘍	腫瘍内科医	WEB
7	2/16（火）	白血病	腫瘍内科医	WEB
8	2/17（水）	泌尿器癌（化学療法）	腫瘍内科医	WEB
9	2/18（木）	胃癌	腫瘍内科医	WEB
10	2/22（月）	婦人科癌	腫瘍内科医	WEB
11	2/24（水）	皮膚腫瘍	皮膚科医	WEB
12	2/25（木）	造血幹細胞移植、ＧＶＨＤ管理	移植医	WEB
13	3/1（月）	肺癌	腫瘍内科医	WEB
14	3/2（火）	脳腫瘍	腫瘍外科医	WEB
15	3/3（水）	悪性リンパ腫	腫瘍内科医	WEB

【講義形式】
ZOOM による WEB または会議室での少人数の対面講義形式＋ ZOOM による講義配信



研修に関する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年17期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は１日 200件に昇り、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間 100 を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A ３年間のカリキュラムとなっています。２年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、2.5ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。３年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には２年間のがん専門修練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などなんらかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年１回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 薬剤師レジデントの規程に基づき、支給されます。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舎（有料）を借りことができるため、家賃負担が軽減されています。
（月額）１年目　240,000 円　２年目　250,000 円
　　３年目　260,000 円

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

チーム医療に貢献する薬剤師

薬剤師レジデント・　がん専門修練薬剤師

血液／造血幹細胞移植科

消化管内科

脳脊髄腫瘍科

乳腺・腫瘍内科

緩和ケア

呼吸器内科

肝胆膵内科

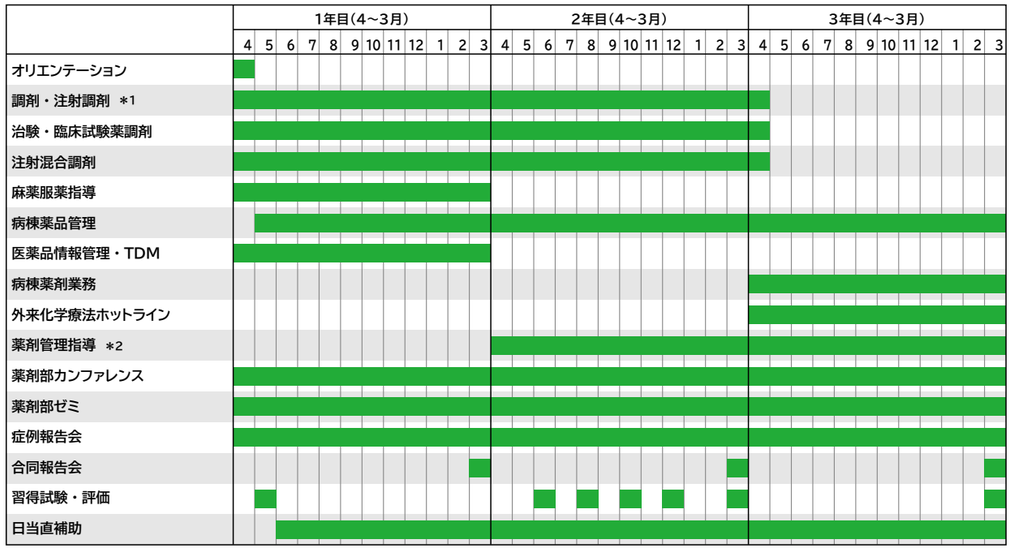
小児腫瘍科

泌尿器後腹膜腫瘍科

骨軟部腫瘍科

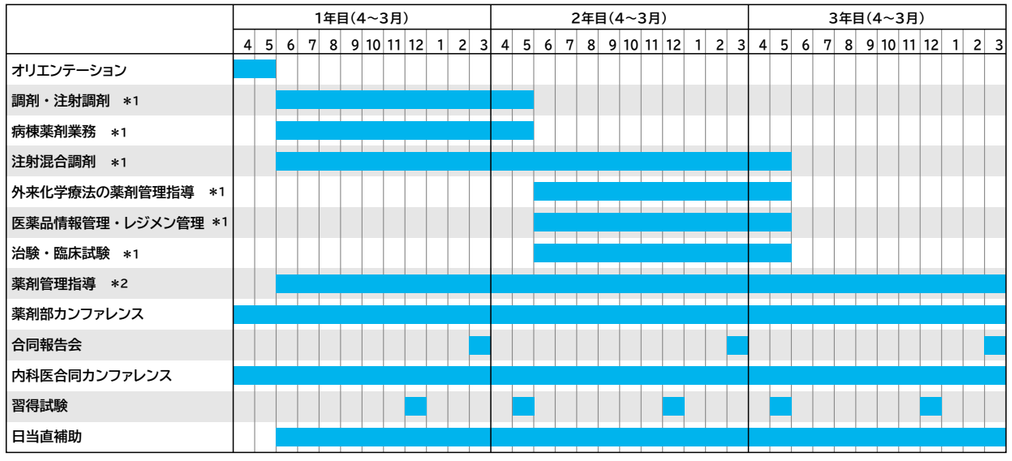
研修スケジュール

【中央病院】



＊1　院内製剤を含む
＊2　２年修了時までに呼吸器、血液 / 移植、消化器、乳腺、肝胆膵を約３ヶ月ごとローテーション。３年目は診療科を固定

【東病院】



＊1　２～４ヶ月ごとのローテーション。
＊2　２年修了時までに呼吸器、消化器、肝胆膵、血液、緩和、頭頸部を3ヶ月ごとにローテーション。３年目は診療科を固定。

薬剤師レジデントの生活

【中央病院・東病院1年目のレジデントの1週間（例）】

中央病院

	8:30	11:30	12:30	17:15
月	処方調剤 注射調剤・注射混合調製 麻薬調剤 レジメン管理	昼休み	医薬品情報	※薬剤師研修・講義研修（9月～3月）
火				※症例検討会
水				※
木				
金				※
土	※		勉強会参加	
日	※			

東病院

	8:30	11:30	12:30	17:15
月	処方調剤／注射調剤 注射剤混合調製	昼休み	処方調剤／注射調剤 注射剤混合調製	※薬剤師研修・講義研修（9月～3月）
火				※
水				内科医合同カンファレンス
木				※
金			薬剤管理指導業務	※勉強会参加
土	※		※勉強会参加	※
日	※		※	※

がんセンター内部での業務など　　がんセンター外部　　※ 日当直または補助業務

【レジデントを支える施設】

図書館

図書館では、国内外のがん対策の推進を支援するため、がんに関する資料を広く収集して利用者に提供するほか、オンラインによる文献検索サービスも実施しています。

薬剤業務

■ 調剤業務

●入院調剤　●外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。

●麻薬の使用法について説明　●院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務

●注射薬調剤　●レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。

●抗がん剤混合調製

■ 薬剤管理指導業務

●乳腺・腫瘍内科
●消化管内科
●呼吸器内科
●緩和医療科
●血液化学療法科
●血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
●肝胆膵内科
●通院治療センター
●小児腫瘍科
●骨軟部腫瘍科
●泌尿器・後腹膜腫瘍科

■ 医薬品情報管理業務

●医薬品情報の収集・整理　●治療薬物モニタリング
●情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。

●レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画

●感染対策チーム：ICT　●褥瘡対策チーム
●栄養管理対策チーム：NST　●外来がん薬物療法患者サポート
●緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務

●薬剤師外来　●外来化学療法ホットライン
●通院治療センター

■ 医療連携

●薬薬連携　●地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

●治験管理室との連携
●治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

●医薬品在庫管理
●麻薬管理
●手術室医薬品管理

■ 製剤業務

●一般製剤調製
●院内特殊製剤調製
●製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育 6 年制が導入された 2006 年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を 2014 年 4 月に開始することとしました。

今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の 5 年間の研修実績を積むことが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント 1 年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3 年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートーナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートーナーでもあります。Clinical Question を臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成 26 年度より開始）

薬剤師育成のイメージ

- 薬剤師レジデント（3年間）
- がん医療の臨床経験（3年間）

→ がん専門修練薬剤師（原則2年間） → がん専門薬剤師受験資格の取得 → 指導的立場のがん専門薬剤師の輩出

■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の 3 本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PK が直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向き PK／PD 研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきた PK／PD 研究のノウハウに Pharmacogenomics の概念を加えたリバース・トランスレーショナル・リサーチ（rTR）に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資する rTR を是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■											
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露		■																				
臨床研究プロトコール作成			■	■	■	■	■	■	■	■	■											
倫理審査委員会にてプレゼンテーション											■											
臨床研究												■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※		■	■									■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

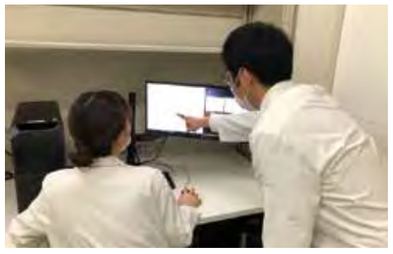
●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間 5,000 人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後 GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる＋α（プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの＋αが吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米では BMT Pharmacist は難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けていないことを一緒に示していきましょう。

●支持療法コース（東病院）



国立がん研究センター東病院は24床のPCU病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和を目指した薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームやPCU病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々の医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。

●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5 大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に 5 大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5 大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となっていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。

募集要項（中央病院・東病院）・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成26年３月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、令和６年３月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数（予定）

中央病院　　７名
東病院　　７名

3. 出願手続

Ⅰ. 願書受付　　中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。

【中央病院 送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　中央病院
人材育成センター専門教育企画室

【東病院 送付先】
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉６－５－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　東病院
人材育成センター専門教育企画室

Ⅱ. 締切日　　中央病院　令和５年５月16日（火）必着
東病院　　令和５年５月19日（金）必着

Ⅲ. 必要書類
a. 願書（所定様式）
b. 健康診断書（所定様式あり、ただし検査項目が網羅されていれば所定外の様式でも可）
c. 薬剤師免許の写し（A４判に縮小）
d. 大学の卒業（見込）証明書または大学院修了書の写し（A4判に縮小）
e. 在職証明書（大学院の在籍証明書も可）
g. 成績証明書（薬学部生のみ）

4. 選抜方法

（中央病院）　書類審査、薬剤部長等による一次面談（WEB）、筆記試験および面接試験（対面）
※中央病院では、一次面談（WEB）を実施するため、選考日程は2日間となります
（東病院）　書類審査、筆記試験および面接試験

5. 選考日時

（中央病院）一次面談（WEB）： 2023年（令和5年）5月19日（金）～26日（金）で調整。
筆記試験および面接試験（現地）：2023年（令和5年）5月30日（火） 午前9時から
（東病院）　筆記試験および面接試験（現地）：2023年（令和5年）5月31日（水） 午前9時30分から

6. 選考会場

（中央病院）　国立がん研究センター　中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地５－１－１
（東病院）　国立がん研究センター　東病院会議室
千葉県柏市柏の葉６－５－１

7. 合格発表

試験日より３週間後頃を予定　　※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

Ⅰ. 手当　　薬剤師レジデント（常勤職員）の規定に基づき支給されます。
Ⅱ. 保険　　社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
Ⅲ. 宿舎　　（中央病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
（東病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
Ⅳ. 修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

（中央病院）　令和５年４月 19日（水） 13時～ 16時
（東病院）　令和５年４月 13日（木） 14時～ 16時 （現地とオンラインでのライブ配信）
※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター　中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail（中央病院）：kyoiku-resi@ncc.go.jp
E-mail（東病院）　：kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

募集要項（中央病院・東病院）・がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）

1. 応募資格

（１）国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または令和６年３月に同研修を修了見込みの者

（２）（１）に相当する学識を有する者で、令和６年４月１日時点で原則として３年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数（予定）

中央病院　　１名

東病院　　１名

3. 出願手続

Ⅰ. 願書受付　　中央病院・東病院それぞれ下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。

【中央病院 送付先】
〒 104-0045 東京都中央区築地５－１－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　中央病院
人材育成センター専門教育企画室

【東病院 送付先】
〒 277-8577 千葉県柏市柏の葉６－５－１
国立研究開発法人　国立がん研究センター　東病院
人材育成センター専門教育企画室

Ⅱ. 締切日　　令和５年 10 月中旬 必着

Ⅲ. 必要書類
a. 願書（所定様式）
b. 健康診断書（所定様式あり、ただし検査項目が網羅されていれば所定外の様式でも可）
c. 上司または指導者の推薦書（所定様式）
d. 薬剤師免許の写し（A４判に縮小）

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験
なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

（中央病院）　令和５年 11 月頃
（東病院）　令和５年 11 月頃

6. 選考会場

（中央病院）　国立がん研究センター　中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地５－１－１
（東病院）　国立がん研究センター　東病院会議室
千葉県柏市柏の葉６－５－１

7. 合格発表

令和５年 12 月初旬　※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員（がん専門修練薬剤師）

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

Ⅰ. 手当　　がん専門修練薬剤師（常勤職員）手当の規定に基づき支給されます。
Ⅱ. 保険　　社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
Ⅲ. 宿舎　　（中央病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
（東病院）　単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
Ⅳ. 修了　　所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

（中央病院）　令和５年４月 19日（水）　13 時～ 16 時
（東病院）　令和５年４月 13日（木）　14 時～ 16 時　（現地とオンラインでのライブ配信）
※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター　中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail（中央病院）：kyoiku-resi@ncc.go.jp
E-mail（東病院）　：kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

メッセージ　レジデント17期生より

国立がん研究センター中央病院
岡本　紘佳（埼玉県出身）

国民の半数ががんになるといわれている現代、医療を志す上で、がん患者さんとの関わりは避けては通れません。がんは患者さんごとに様々な治療が存在し、薬もめまぐるしく変化していきます。私は、がん医療の専門性を高め、がん患者さん一人ひとりに合わせた最適な薬物療法の提案やサポートができる薬剤師になりたいと考え当院のレジデントを志願しました。3年間のレジデントカリキュラムには、セントラルや病棟業務に加え、治験やDI業務にも携わる機会が設けられています。基礎から最新のがん医療まで学ぶのに最適な環境がここにはあります。この3年間は決して易しい道のりではないと思いますが、高い志と専門的知識を持ったスタッフの先生方のもとで働きながら、多くを吸収し、がん患者さんの力になれるよう成長していきたいと思います。

国立がん研究センター中央病院
森田 恵理佳（千葉県出身）

親戚をがんで亡くしたことをきっかけにがん治療を最前線で学びたい、患者様やご家族の役に立ちたいと考えるようになり当院を志望しました。
当院のレジデント制度の魅力はがんに精通した先生方の下で知識と経験を積むことができる点です。1年目のセントラル業務では、処方内容からさまざまなことを読み取ったり、日々の業務の中で感じた疑問をスタッフの先生方やレジデントの先輩方に聞いたりすることで基礎的な知識を深め、2年目以降の病棟業務に繋げることができます。また医師や薬剤師による講義研修や勉強会があり、幅広い知識を習得できる点も大きな魅力であると感じています。
覚えなければならないことも多く大変ですが、高い志を持つ同期や先輩方から良い刺激を受け、もっと知識と経験を積んで自分もがんに精通した薬剤師になりたいという気持ちが大きいです。患者様に最善の治療を安心して受けていただけるようにこれからも精進していきたいと考えています。

国立がん研究センター中央病院
石川　駿（東京都出身）

私は小さい頃より医療に興味があり、中でも祖母の闘がん生活を通してがんというものに非常に興味を持っていたことががんに携わる薬剤師を目指したきっかけでした。抗がん剤治療は日々進歩しており様々な治療法が確立されてきましたが、それに伴い副作用も多岐にわたりマネジメントも難しくなってきています。そんな中で患者さんが抗がん剤治療を継続するために、薬のスペシャリストとして薬剤師は大きな役割を担っていると思います。
当院ではメジャーながん種から希少がんまで幅広く携わることができ、また勉強会や学会発表など自己研鑽ができる場が豊富にあることも魅力の一つであると思います。学んだことを患者さんに還元ができる素晴らしい環境が整っていることがレジデント制度の1番の魅力であると思います。恵まれた環境の中で、真に寄り添うとは何かを常に考えながら患者さん一人一人に向き合っていきます。

国立がん研究センター中央病院
川﨑　梓（埼玉県出身）

がん治療の分野に関心を持った一番のきっかけは、自分自身が抗がん剤治療を経験したことです。治療には、副作用、普段の生活との両立など様々な不安や悩みが生じることを実感しました。この経験から、多様なライフステージの中がん治療に励む患者さんの心の支えとなれるような専門性の高い臨床薬剤師となりたいと思い、当院のレジデントを志望しました。
日々の業務では、経験豊富なスタッフの先生・レジデントの先輩方の知識や技術を間近で見ながら基礎から学ぶことができます。また、同期と支え合い共に成長できる環境は刺激的で、レジデント生活の大きな魅力であると感じます。患者さんの治療生活に貢献できるよう、また、理想とする薬剤師像に近づくためにも精進していきたいです。がん治療の分野に興味を持たれた方は、ぜひ一度足を運んでみてください。

国立がん研究センター中央病院
澤村　彩菜（神奈川県出身）

がんは現代において身近な疾患でありながらほとんどの治療で作用と毒性の強い薬を複数使用しなければならない状況にあります。治療において薬を適正に使用するためにはより高度な知識や経験を積む必要があると痛感し当院を志望致しました。当院では1年目にセントラル業務で日々の業務、研修や勉強会を通じて基礎的な知識を学び、2年目、3年目の病棟業務でより実践的な知識と経験を得ることができます。学ぶことが多くがん領域の最先端で学ぶというプレッシャーを感じることもありますが、周りの先生方の手厚いご指導の下、非常に充実した日々を送ることができます。また研究や学会参加へのサポートも充実しているので、がん領域の最先端で活躍できる薬剤師になれるよう今後もより自己研鑽に励みたいと思います。

国立がん研究センター中央病院
槇尾　海斗（千葉県出身）

私は病院実習での経験からがん患者さんの治療を支えられる薬剤師を目指したいと思い、当院の薬剤師レジデントを志望しました。当院はがん専門病院であるため、日々の業務において様々ながんの症例や処方に触れる機会があります。1年目のセントラル業務の中で基礎的な知識を身につけることで薬剤師としての土台を築き、2年目以降の病棟業務にて臨床経験を積むことができます。業務のほかにも、当院のレジデント制度では研究活動や症例検討会、講習会などがん医療に貢献できる薬剤師を育成するためのカリキュラムが整えられていることから、がんの専門知識の習得・実践の場としてこれ以上ない環境だと考えております。レジデントの3年間を通して多くのことを吸収し、患者さんに適切な医療を届けられるよう精進していきたいと思います。

メッセージ　レジデント17期生より

国立がん研究センター東病院
桐 木　　頼 子（北海道出身）

私の学生の頃に祖父や身近な人が癌になりました。その時に多くの人から抗がん剤はどんなものを使うのか、副作用はどういったことが起こるのかなど薬のことを聞かれましたが当時臨床的なことはわからないことが多く、もどかしい思いをしたことがきっかけでがん領域に強い薬剤師になりたいと思いました。
当院では1年目から薬剤師としてのセントラル業務、各診療科の病棟業務、臨床研究に携わることができます。特に1年目から患者さんに直接かかわることができることに魅力を感じ、当院を志望しました。病棟で業務をする中で机上の知識だけでなく日々患者さんから学ばせていただいています。また、がん領域に精通しているスタッフの先生方やレジデントの先輩方からご指導いただくことで様々な症例に介入することができ、毎日やりがいを感じています。レジデント生活3年間は診療・教育・研究の3本柱のどれも妥協しない研修スケジュールが組まれています。学びのある毎日で想像よりも大変なことが多いですが、がん医療に携わるには最適の環境なので興味がある方は見学からでも足を運んでみてください。

国立がん研究センター東病院
栗 原　　昌 也（宮崎県出身）

「がん治療を受けている患者様に対し、薬剤師として何が出来るのか？」この事を心がけて、日々業務をしています。なかなか思ったようにはいきませんが、患者さんとお話しする事で、今どういう状況で何をして欲しいのかを聞き出す事ができ、より良い治療を受けていただく様なサポートを頑張っています。
がん患者さんでも他疾患を併発してる方が多くいらっしゃいます。当院はがんに特化した病院であり、なかなか他疾患薬に触れる機会が少ない為、私は週に一回保険薬局でアルバイトをしています。かなり刺激的な体験であり、学んだ事を患者さんに還元する事が出来ています。
レジデントという3年間で薬剤師としてがんだけでなく全体的な知識を付けるべく日々勉強しています。当院で皆さまと学べる日が来る事を楽しみにしております。

国立がん研究センター東病院
小 谷　　翼（岩手県出身）

私は大学5年次での病院実習を踏まえ癌領域興味を持ち、癌に関して学びを深めたいと考え、最先端のがん医療を行っている当院のレジデントを志望しました。入職してからの1年は調剤室や混注室などのセントラル業務を行い、2年目になると外来業務も行うようになっていきます。レジデントとしての生活は想像よりも大変で、日々勉強や研究等に追われていますが、やはり癌治療を学ぶ上では最高の環境であると考えています。東病院では、病院見学会やレジデント一日体験なども行われていますので、興味がある方は是非一度足を運んでみてください。皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。

国立がん研究センター東病院
上 澤　　笙 太（栃木県出身）

私は、がん医療に専門性を身に付けた薬剤師として医療に貢献していきたいと考え、当院の薬剤師レジデントを志望しました。経口抗がん剤を始めとして、がん治療の多くは外来で多く行われています。抗がん剤治療では、副作用を避けられないことが多く、そこに専門性を持った薬剤師が関わることは大きな意義があると考えています。当院のレジデント制度は入職してから卒業までのカリキュラムがしっかりと組まれているため、専門性を身に付ける環境が整備されています。日々の業務においても、指導薬剤師やレジテントの先輩方からもご指導をいただけるため、自身の業務や勉強についても困ったときはすぐに相談できる環境です。レジデントの日々は、想像していたよりも大変なことが多いですが、とても充実した日々を送ることができています。特に、診療科のローテーションでは様々ながん治療について学ぶことができており、入職して良かったと心から感じています。目標に向けて努力する環境としてはこの上ない場所だと思います。レジデントに少しでも興味のある方はぜひ一緒に頑張りましょう。

国立がん研究センター東病院
早 川　　美 妃（千葉県出身）

薬局薬剤師として、同世代のがん患者さんとの関わりが多くなる中で、がん治療に対する不安や化学療法による副作用軽減のために薬剤師として何ができるのか、がん治療に対する専門性を身に着けたいと思い、東病院のレジデントに応募しました。
東病院では、調剤や注射、抗がん剤調製などのセントラル業務だけではなく、1年目より診療科ローテーションがあり、がん治療から緩和治療まで多くの患者さんと関わりを持つことができます。また、1対1で専門や認定資格を持った指導薬剤師がつき、レジメンについてだけではなく、がんの病態や併存疾患について幅広い知識を学ぶことができます。
レジデント生活は日常業務や患者への服薬指導、研究など盛りだくさんで、心が折れてしまいそうになりますが、同期に恵まれ切磋琢磨し合いながら日々過ごしています。卒業後も東病院で身に着けた経験、知識を患者さんに還元できるよう日々精進したいと思います。

国立がん研究センター東病院
渡 部　　真 由（山形県出身）

私ががんの領域に興味を持ち始めたのは、祖父ががんで闘病していたことがきっかけでした。病院実習では、抗がん剤による副作用の対策・ケアで苦労する患者さんを目の当たりにし、がん患者さんに貢献できる薬剤師になりたいという思いで、当院レジデントを希望しました。入職後はセントラル業務に加え、病棟でのがん患者さんとの関わりを通して、微力ながらも患者さんへ貢献するために日々奮闘しています。自らの薬学的介入によって、患者さんの抱える問題が解決した経験をしたときはとてもやりがいを感じます。
日々の業務以外にも、自己研鑽、研究などやるべきことも盛りだくさんで、大変なときもあります。しかし、がんの専門知識に豊富な先生方が常に近くにいて、３年間で多くの経験を積みながら、ご教授いただける環境というのは大変貴重であると考えます。また、ここで働きながらも、国内でも最先端のがん医療の情報が入ってくることは、当院ならではのことだと実感しております。このレジデント3年間を通して、がん医療に精通した薬剤師になれるよう、これからも精進していきます。
がん医療にご興味のある方と共に学ぶことができることを楽しみにお待ちしております。

国立がん研究センター東病院
福 田 有 紀 子（東京都出身）

私は、祖父のがん罹患をきっかけに世の中のがんに苦しむ人を救うことのできる医療人になりたいという思いを持ち、最先端のがん治療について学ぶことのできる当院のレジデントを志望しました。薬剤師レジデントとして臨床に関わる日々の中で、本当に多くの人々が医療に関わっておりその全ての人々が医療の担い手であることを感じました。また一方で現在の医療では助からず今日も苦しんでいる人が多くいることもまた事実であることを痛感しています。そこで私は、助けられる命を増やしていくためには研究が不可欠であり、研究に携わる人がいるからこそ過去・現在・未来の医療は成立すると考えるようになり、レジデントと平行して大学院の博士課程に進学しました。国立がん研究センターは最先端の治療・臨床試験を行っているため、臨床医学と基礎医学の融合する場でもあり、先輩方にも、常に研究の精神をもって臨床に携わっている方が多くいらっしゃいます。私もこの素晴らしい環境を最大限に活かして、人類の悲願である「がん克服」に貢献していきたいと考えています。

メッセージ　がん専門修練薬剤師修了生より

国立がん研究センター中央病院
高 木　麻 衣（9期がん専門修練薬剤師）

私はがん領域に興味があり薬剤師を目指しました。私は大学病院で5年勤務後、がん症例の経験不足を感じ、がん医療の最先端である当院で幅広い領域のがん医療を学びたいと思いがん専門修練薬剤師を志望しました。

当院では関わる患者さん全員が癌を抱えており多様なレジメンで治療をされているため、日々の業務の中だけでも多くの経験と知識が身につきます。さらに、経験豊富なスタッフの先生方と症例検討を行う中で、個々の患者さんの状態に沿った考え方や薬剤選択などを議論することもあり、とても興味深く学びも多いため、私自身ももっと知識を深めて行きたいと感じます。

また、当院は臨床研究も活発に行っておりレジデント期間にも研究を行います。学会発表や論文を通して他の医療従事者とその疑問や結果を共有し、研究の成果を臨床現場に活かす事で、より良い医療を患者さんへ提供できるように邁進していきたいです。

MEMO

MEMO

交通案内

築地キャンパス

- 中央病院
- 研究所
- がん対策研究所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL 03-3542-2511

- 都営地下鉄　大江戸線　築地市場駅 A3番出口から徒歩1分
- 東京メトロ　日比谷線　築地駅2番出口から徒歩5分
- 都営地下鉄　浅 草 線　東銀座駅6番出口から徒歩5分
- 東京メトロ　有楽町線　新富町駅4番出口から徒歩10分

柏キャンパス

- 東病院
- 先端医療開発センター

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
TEL 04-7133-1111

- つくばエクスプレス　柏の葉キャンパス駅西口から、
  東武バス（国立がん研究センター経由）
  江戸川台駅東口行きまたは柏の葉公園循環行き6分
  国立がん研究センター下車またはタクシー4分
- JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 柏駅西口から、
  東武バス国立がん研究センター行き30分またはタクシー20分
- 東武野田線 江戸川台駅東口から、
  東武バス（国立がん研究センター経由）
  柏の葉キャンパス駅西口行き10分
  国立がん研究センター下車またはタクシー7分
- 羽田空港から、東武・京浜急行高速バス柏駅西口行き
  1時間15分
- 常磐自動車道 柏 IC. 千葉方面出口から
  国道16号線へ500m 先を右折5分

出願に関する照会及び採用願書用紙の請求先

国立がん研究センター　中央病院・東病院 人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係

E-mail（中央病院）：kyoiku-resi@ncc.go.jp

E-mail（東病院）　：kashiwa_kyoren@east.ncc.go.jp

電話番号（中央病院）：03-3542-2511（内線 2249）

電話番号（東病院）　：04-7133-1111（内線 5551）

国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan
http://www.ncc.go.jp/